

令和4年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	田んぼでの農作業ボランティア
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 西区事務所
3	協力団体	さいたま市西区ホテルと田んぼの会
4	活動年月日	令和4年8月28日、9月4日、9月17日
5	活動場所	さいたま市西区内の田んぼ
6	内容	田んぼでの除草、稲刈り、脱穀・もみすりなど

7 活動の様子

さいたま市西区には、のどかな田園風景が残っています。

そんな私たちの原風景とも言える田んぼを守り続けているボランティア団体「さいたま市西区ホテルと田んぼの会」のみなさんにご協力いただき、田んぼでの農作業体験を行いました。

8月の体験はあいにくの雨模様。予定していた草刈りの活動はできませんでしたが、ボランティアさんから田んぼの歴史やボランティア活動についての話を聞きました。



～参加者より～
「最近ではほとんどの田んぼで機械が進んでいるそうですが、すべて手作業で行っていることを知りビックリしました。」

9月には稲刈り体験を行いました。

～参加者より～
「稲刈りを体験してみて、かがんで稲を刈るのは思っていたより大変でした」
「稲刈りのような体験はなかなかできるものではないため、とても貴重な経験になりました」



今回、中学生・高校生を中心とした若い世代の方の参加が多く見られました。いただいたご意見の中には「また参加したいです！」とのうれしいお声もありました。体験をきっかけに、身近な自然環境に興味を持つとともに、地域でのボランティア活動についても関心を持ってもらえたらありがたいです。

令和4年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	“離れていてもつながれる“初めてのオンラインボランティア！
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 北部地域連携課大宮区事務所
3	協力団体	特別養護老人ホームはるばてお
4	活動年月日	令和4年7月27日（水）、8月20日（土）、8月22日（月）
5	活動場所	はるばてお敷地内ボランティア活動室
6	内容	ZOOM を使って施設内の利用者さんとお話やレクリエーションを楽しむ。

7 活動の様子

毎年、ボランティア体験学習の参加者を受け入れている特別養護老人ホームの担当者とコロナ禍でも施設の利用者と繋がるプログラムを検討しました。高齢者と触れ合う形は違いますが、今回オンラインを使って交流できる内容を施設職員の皆様のご協力のもと実施しました。

【画面越しでの交流♪】

ボランティアさんは緊張した面持ちで画面に近づき、利用者の皆さんに自己紹介をしました。声が聞こえているか、顔は見えているのか等画面越しで確認しながら会話を楽しみました。利用者さんからは「好きな科目はなんですか？」「どこから来ているの？」などいくつか質問がありました。ボランティアさんが答えると会場からは拍手が！！温かい雰囲気になりました。



【利用者の皆さんと一緒にレクリエーションを体験♪】



自己紹介の後には、施設職員と一緒に考えた連想ゲームを出題しました。利用者の皆さんが答え易いようヒントを出したり、正解が出たら盛り上げたり、レクリエーションを通じて交流ができました。

ZOOM を使ったボランティア体験でしたが、参加された学生からは「画面越しだったけれど、皆さんが楽しんでいただけたのが分かって嬉しかった」「ZOOM を使って話ができるととても楽しかった。」「施設の中には入れなかったけれど、部屋の中も見せてもらえて貴重な体験だった」など感想がありました。利用者さんは画面を通じて人と話ができることに驚きを感じられていましたが、興味津々で画面に近づいてみたり・・・

短い時間でしたが、普段とは違う交流の仕方です思い出に残る1日となりました

令和4年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	フードパントリー活動体験
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 北部地域連携課 見沼区事務所
3	協力団体	フードパントリー大宮
4	活動年月日	令和4年8月1日
5	活動場所	大宮区内
6	内容	余剰野菜等を活用し、母子家庭に配布するパントリー活動体験

7 活動の様子

さいたま市内の母子世帯などを対象とした活動を行っている「フードパントリー大宮」が、定期的に行っている「エコ野菜マルシェ」の活動を体験していただきました。



【参加者の声】

フードパントリーとは、もとは食品倉庫の意味で、フードドライブで集めた食品を生活に困っている人に配布する支援だと理解しました。

この活動は貧困・孤立に苦しむ家庭の生活を支援しながら、食品ロス削減にも貢献することを学びました。

【協力団体の声】

地域で子どもの貧困について取り組む意識が高まる必要があると思っています。自分でできること、使わない食品を寄付したり、配布場所の提供をしたり、活動資金を寄付したり、色々できることがあるので、将来地域を担う子どもたちは「地域で育てる」という動きを期待します。



【担当者より】

フードパントリー大宮は、主に困難を抱える母子世帯を中心に支援活動をされています。通常のフードパントリー活動では、寄付される食品は日持ちする常温の物がほとんどですが、「エコ野菜マルシェ」はこうした寄付食品では補いにくい新鮮野菜を提供し、利用世帯の食卓を潤しています。こうした野菜は県内の生産者から頂いたものや、食品配達サービス事業者のロス分を寄付してもらおう等、支援の輪を広げています。

当日開催された会場は、定期的にフードパントリー大宮の活動にボランティアとして参加されていたとある企業のスタッフさんとの縁で、企業の営業スペースをお借りしての開催でした。団体代表からは、恒常的な活動会場確保が課題の一つのお話もありました。

令和4年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	絵本と紙芝居の読み聞かせを体験
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 中央区事務所
3	協力団体	えほんの会
4	活動年月日	令和4年8月3日、4日、5日
5	活動場所	中央区役所会議室（3日、4日）、下落合小学校会議室（5日）
6	内容	絵本や紙芝居の読み聞かせや手遊びを練習し、最終日に放課後児童クラブの子どもたちに向けて発表する。

7 活動の様子



【参加者より】

- ・子どもが相手だと呼びかけに反応があったり、色々な感想を言ってくれて嬉しかった。
- ・最初は成績のために参加したが、こんなに楽しいのならもっとたくさんやりたいと思う。
- ・子どもと触れ合っているととても楽しかった。物語だけでこんなに仲が深まるとは思わなかった。



【協力団体より】

中・高生全員が3日間出席し、最終日の発表はそれぞれに工夫があって、素晴らしかったです。静かでおとなしい参加者が、読み聞かせの時はしっかり大きな声で立派にできました。練習する中で班でのチームワークができ、成長する姿が見られて、満足感にあふれました。

【担当者より】

コロナ以前は高齢者施設を訪問して読み聞かせをする、小学生から参加できるメニューでしたが、今年からは中高生が小学1～4年生の子どもたちに向けて読み聞かせをする内容に変更しました。

初日は小さかった参加者の声も練習の甲斐あって、最終日には大きな声で感情豊かに読み聞かせることができ、子どもたちも「わー！おっきい！」「ワハハハ！」と見事に物語の世界に引き込まれて、グループごとに披露した手遊びも、子どもたちからアンコールが来るほどの大盛り上がりでした。

すべての発表が終了し、参加者みんなで挨拶した時、男の子が大きな声で「また来てね！」と言ってくれて、その思わず口から出た感謝の言葉にこちらも胸が熱くなりました。参加者のお兄さんお姉さんに向けて手を振りながら退場していく子どもたちの様子から、みんなが心から楽しい時間を過ごせたことが伝わってきて、参加者にも子どもたちにも心に残る今年の夏の思い出になっただろうと感じました。これを機に、様々なことに興味を持ち、実践していきましょう。

令和4年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	子育てサロンボランティア
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 桜区事務所
3	協力団体	大久保地区社会福祉協議会
4	活動年月日	令和4年8月6日（土）、9月3日（土）
5	活動場所	大久保公民館
6	内容	子育てサロンに来る乳幼児と遊び、触れ合う体験

7 活動の様子

大久保地区社会福祉協議会では、毎月第1土曜日に子育て支援センターと共催で乳幼児を対象とした子育てサロンを開催しています。体験者からは、「普段小さい子ども達と関わることが少ないため、とても楽しく良い経験になった」との声がありました！



開始前には
子育て支援センター
の先生からお遊戯を
教わり一生懸命
練習していました！



★ 協力団体より ★



子ども達と直接触れ合う機会が少ない中、皆さんが手遊びやお遊戯など積極的に参加している様子があり、子ども達もとても楽しそうでした！



★ 担当者より ★

今回は2日間で5名の方が参加してくれました。子どもが好きな方や将来子どもに関する職を目指している方など皆さん目的を持って参加されていました。最初は声をかけたらよいか迷う場面もありましたが、協力団体の皆さんが優しく見守ってくださり、最後は子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

令和4年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	小児・乳児の応急手当講習(AED含む)、災害時の命の守り方
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 浦和区事務所
3	協力団体	ユニバーサルデザイン・ステップ
4	活動年月日	令和4年8月3日
5	活動場所	浦和ふれあい館
6	内容	応急手当講習、身近な防災を一緒に考える
7	活動の様子	<div data-bbox="199 492 1460 716" style="border: 1px solid #4a86e8; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p>久しぶりの午前・午後通しのプログラムで、参加者は7名でした。 応急手当講習では、小さな子どもや赤ちゃんの人形を使って、大人とは違う力や方法で手当をすることが必要であることを学びました。 身近なものを使った応急手当も学びました。</p> </div> <div data-bbox="199 734 1465 1205" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="718 1120 1244 1433" style="border: 1px solid #76c73a; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>AEDの使い方などを楽しく学べて良かったです。今回学んだことを忘れずに、いざという時使えるようにしたいです。 (10代・高校生)</p> </div> <div data-bbox="220 1384 1037 1937" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1005 1545 1460 1702" style="border: 1px solid #76c73a; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>様々な知識が増えました。 (10代・高校生)</p> </div>

令和4年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	社会の壁を探しにいこう（まち探検）
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 浦和区事務所
3	協力団体	ロービジョンラボ、さいたま市聴覚障害者協会、さいたま市障害者協議会
4	活動年月日	令和4年7月26日
5	活動場所	浦和ふれあい館
6	内容	視覚・聴覚・下肢に障害がある方と一緒に街を歩き、駅のホームに降りて、街の工夫や改善点などを意見交換する。

7 活動の様子



目の見えない人とともに歩く



耳がきこえない人に不便さを聞く



車いすユーザーと駅を点検

座学の後、JR北浦和駅構内へ！
 目の見えない人がきっぷを買うときのこと、
 耳がきこえない人が情報を得られないこと、
 車いすユーザーが電車に乗るまでのこと。
 一緒に移動しながら、みんなでたくさん考えました。

ガタガタの道路、歩きスマホに危険を感じたり、聴覚障害の方は電車が事故で動かなくなっても理由がわからないままということを知りました。すぐ私たちができることは、周囲に気づいていけること、そのような気持ちで日々を過ごすこと、勇気を出して一声かけることだと思いました。
 (40代・主婦)

目にしょうがいのある人にとっては点じブロックや点じがひつようなんだと分かった。耳がきこえない人はしゅわを覚えないと話せないとわかった。でもかみでかいてもつたわることがわかった。
 (10歳以下・小学生)

交差点のちょっとした坂は、車いすではきゅうな坂みたいに感じることに気づきました。障害者の方が困っていたら何か手伝いを出来るか考えたいです。
 (10代・小学生)

令和4年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	外国コインの国別仕分け
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 南区事務所
3	協力団体	埼玉県ユニセフ協会
4	活動年月日	令和4年8月4日、5日
5	活動場所	コーププラザ浦和
6	内容	外国コインの国別仕分け

7 活動の様子

新型コロナウイルス感染拡大以降、個人での仕分け作業を行っていましたが、感染症対策を徹底し、3年ぶりに参加者みんなで力を合わせての共同作業を実施しました。

「これどこの国のかわかる？」
「面白いコインがある」と楽しみながら活動することができました。



自分達だけではどこの国のコインかわからないものは、職員の人と一緒に図鑑を見ながら確認しました。
聞いたこともない国名もあり、たくさんの学びがあったようです。

今回仕分けをしたものは最終的に、111ヵ国もの国のコインだったようです。
参加者からは「コインの仕分けを通じて様々な国があることを知ることができた。」「それぞれの国の特徴や募金を通してどのような支援ができるのかを学ぶことができた。」「今後も積極的にボランティア活動に参加したいと思った。」といった感想がありました。

令和4年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	自然と人とのつながりについて学ぼう
2	実施社会福祉協議会	緑区事務所
3	協力団体	NPO 法人エコ. エコ
4	活動年月日	令和4年7月27日
5	活動場所	浦和ふれあい館
6	内容	自然と人とのつながりや SDGs について学ぶ

7 活動の様子

実験！

蓮の葉に水を吹きかけるとどうなるかな…？



参加者「葉っぱが
水をはじいているね！」

エコエコさん「この効果を
活かして、エコな商品開発に
つながっているんだよ！」

SDGs〇×クイズ大会！



参加してみて…

「自然のおかげで今の生活があることに気づいた」
「自然と人が支え合って生きていくことの大切さを学んだ」「SDGsについて学ぶ機会があってよかった！」

NPO 法人エコ.エコさんより
「多くの生き物や自然があることで、
私たちの生活が豊かになります。
子どもたちが、地球の未来を、広い
視野で考えてくれたら嬉しいです。」



令和4年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	絵手紙作成の体験
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 岩槻区事務所
3	協力団体	絵手紙グループ ふじの会
4	活動年月日	令和4年8月18日
5	活動場所	さいたま市 岩槻駅前東口コミュニティーセンター
6	内容	絵手紙作成の体験

7 活動の様子

送る相手を思い浮かべることで、より心を入れた人情的な絵手紙を作ることができました。相手を思いやる心の大切さを学びました。



絵手紙の書き方を知ることができたので、いつも絵手紙をもらっている祖母に、返信を出してみようと思います。

今回体験で作成いただいた絵手紙は、一人暮らし高齢者などを対象としている宅配食事サービスの利用者へ配布させていただきました。

参加者されたみなさんの気持ちが届くと嬉しいです。

